

## 令和元年度 第1回まちづくり審議会 会議録

1.日 時：令和元年8月21日（水）

15時00分～17時00分

2.場 所：四條畷市役所本館2階 ミーティングルーム

3.出席者：（委 員）10名

窪委員（会長）、榎原委員（副会長）、乗本委員、寺阪委員、青柳委員、  
守屋委員、山本委員、平田委員、石井委員、北條委員 ※順不同

欠席者：（委 員）0名

（傍 聴）0名

（事務局）4名

山本市民生活部長、上村人権・市民相談課長、西村人権・市民相談課  
主任、田中人権・市民相談課臨時職員（記録担当）

4.主な審議案件

- (1) 人権に関する市民意識調査結果報告書（原案）について
- (2) その他

5.配布資料

- (1) 次第
- (2) 市民意識調査報告書（原案）修正
- (3) 市民意識調査報告書（原案）修正箇所説明資料

## 6.議事録

### (1) 人権に関する市民意識調査結果報告書（原案）について

会長

案件 1 人権に関する市民意識調査結果報告書原案について事務局から説明をお願いします。

事務局

案件 1 について説明します。

昨年度は、審議会でも市民意識調査の設問についてご意見いただきまして、今年の 2019 年 1 月 28 日から 2 月 28 日に調査を実施し、結果、658 人の市民のみなさまからご意見をいただきました。

今年度は報告書をまとめさせていただきます。

案件 1

- (1) 原案の修正箇所について
- (2) クロス集計の内容
- (3) 自由記述欄について
- (4) 無回答の取り扱いについて

(1) 修正箇所について説明いたします。

①全体に対する修正箇所として割合に表す数値の表記を小数点第 1 に統一しました。

②集計表の全体に対する割合という言葉、わかりやすいように%表記に改めました。

③回答率の算出方法について、回答者に対する割合に統一しました。

複数該当の場合に、例えば、100 人が 2 つずつ回答いただいた場合、200 回答がありますが、最初に送らせていただいたのは回答数 200 に対する割合を記載しておりましたが、回答者あたりの割合に改めさせていただいております。

④①～③の修正に伴いまして、解説文章の割合表記も変更しました。

また、表現の揺れ、ですます調の統一をさせていただきました。

⑤複数該当の設問について、選択肢を回答数の多い順に並べました。

⑥クロス集計表について見直しを行いました。

クロス集計については一度削除させていただいておりますが、本日表示についてご議論いただきたいと思っております。

⑦太字にするなど、集計表及びグラフの視認性の向上を図りました。

次に各設問の修正箇所でございます。

①性別や年齢など回答者の属性について、帯グラフを追加しました。

②問 2-2 の設問内容が、問 2-3 と重複しておりましたので変更しています。

③問 18 設問の文章に誤りがあり、修正しました。

④問 23-1 の回答数の集計が全体の母数で割合を出してしまっておりましたが、修正しました。

⑤問 23-2 につきましては「ない」と答えられた方の割合を出すところを、全体の母数で割合を出していたので、修正しました。

(2) のクロス集計について

個別資料のクロス集計編【案】をご覧ください。

性別と年齢と職業を一つの一覧の表としてまとめています。

性別についてしか載せていませんが、集計の取り方についてご意見いただきたいと思えます。

会長

クロス集計する事によって気づかれた事等ご意見があればお願いします。

事務局

まだ男女についてしか集計できていませんが、クロス集計案の 1 ページ目をご覧くださいと上から全体集計の順位が高い順に、いじめ問題 60%、インターネット 45%となっています。

男女別に比較した場合 1%、2%しか差が生じてないことがわかります。

一方で、女性の人権に関する問題に関して、1 番の選択肢を見ると男性は 21.7%、女性は 29.9% というように性別により女性の人権に対する意識に差異が生じている事がわかります。

会長

今の考え方でいくと、12 番の就職、雇用に関する人権問題や 18 番の戸籍に記載されていない人が不利益を受ける問題（無国籍問題）について、女性の方が意識が高いのは顕著に出ているところですね。

平田委員

年代別もあつたら面白いですが。

事務局

現在は男女別しか載せていませんが、この形で進めるのであれば、年齢別、職業別も進めさせていただきます。

会長

雇用に関して女性が不利だと感じているのは分かりますが、18番の戸籍、無戸籍問題も女性の方が意識が高い例はありますか。

事務局

あくまでも、推測になるのですが、無戸籍の原因としては待婚期間というものが考えられます。

結婚解消しても6ヶ月以内に生まれた子どもは前の夫の子になるとうもので、それを避けて出生届を出されないという方がいるので無戸籍となるのではないかと思います。

そのため、実際出産される女性の方が注目度が高いと考えられます。

会長

女性全般の話であって、外国人は出てこないですかね。

例えば男性が日本人で、女性が外国人の場合に一方向的に離婚させられたり、その子どもが無戸籍になってしまう問題などはまた別でしょうか。

事務局

待婚期間が原因となる場合の他にも外国籍の方で届け出をされてない等の理由で無戸籍の方もおられるかと思います。

青柳委員

棒グラフに表示されるという事は、1つあたりの集計がものすごい数になると思います。

事前に頂いていた原案は設問によってクロス集計されているところとされていない所がありますが、違いは何でしょうか。

事務局

単一回答のみクロス集計させて頂いています。

複数回答もという事になると、全部選択肢によって分かれるので、可視性の面で難しくなってきます。

性別、年齢、職業別のクロス集計ですが、全項目合わせると、1設問あたり棒グラフが10本になります。どうまとめるかご議論いただきたいと思います。

会長

現在、男女別集計のみを載せていますが、どの基準を入れるかどうかの意見を聞きたいという事です。

何かありますでしょうか。

平田委員

棒グラフを10本にすると見にくくなりそうですね。

山本委員

例えば、性別だけで男、女、その他、答えたくない、無回答と5本ある訳ですね。

グラフは見て判り易い所が大事ですから、表も別であるので、性別に関しては全体と男、女のみにしてはどうでしょうか。

同様に年齢、職業も3~4個に統一してはどうでしょうか。

平田委員

公開は紙のみの配布でしょうか。

それとも、ホームページだけでしょうか。

事務局

紙と、ホームページ上にもPDF化したものを上げようと思っています。

平田委員

ホームページ上であれば、ボタンを押せば男女別、年齢別と出るようにする事もできると思います。

事務局

データとしてすべて載っているものと、概要版としてみなさまに見て頂くものを作った方が良いという意見は庁内からも出ており、検討を進めていきたいと思っています。

会長

市民が自分でホームページにアクセスして自分で指標をクリックして自己分析させたいという考えなのではないでしょうか。

平田委員

正式に発表するのは決まった形があると思いますが、グラフだけならボタン押したら男女別にわかる、年齢別にわかるというようなものを作る事は可能ではないでしょうか。

会長

他にその方法をやっている所はありますか。

確かにそれが出来れば先駆的だと思います。

事務局

事務局では見た事がないです。

また、市役所のホームページの作成システムでは、入力ルールに則って入力するものになり、ホームページを直接触るといふ点では困難かもしれません。

平田委員

容量は年齢別も入れたら 3 倍になってしまいますが、技術的にはそんなに問題はないと思います。

北條委員

見て判り易くする方が見る気になると思います。

例えばクロス集計では男女以外は省略してもいいのではないのでしょうか。

このデータを使って何をするかという方が大切だと思います。

平田委員

ネットだと最初にすごくわかりやすい表が出てくるので、もっと詳しく知りたい人だけそのボタンを押していったら詳しく見ていけるのですが。

技術的にも別にリンク飛ばすだけの話なのでそんなに難しくないと 생각합니다。

会長

大変貴重な意見で素晴らしい意見だと思います。

山本委員

表記の方法で 5 ページの円グラフですが、2 番のどちらかと言えばそう思うという表記が網かけとかぶって見えにくいです。

他の柄にした方がいいと思います。

北條委員

属性の所で設問では、家族構成や四條畷居住年数とか聞いているのに、グラフには入っていませんが、どのように載せるのでしょうか。

事務局

調査の段階では居住年数や家族構成も聞かせていただいたのですが、集計するにあたり、性別、年齢、職業をクロス集計すれば十分ではないかと、大阪府人権協会様からもアドバイスを頂き、3 項目で進めようと思います。

北條委員

年齢は年代別ではないのでしょうか。

事務局

部落差別問題についての認識は、30代までと30代から、50代までと60歳以上では学校や社会で受けた教育が違うため、年代別で差が出る可能性があるとして大阪府人権協会様にアドバイスを頂き、年代別で集計する予定でした。

部落差別については年代ごとで差異が出るかもしれませんが、逆に他の項目では違うところが出る可能性があるため、年齢別にしました。

会長

(3) 自由記述欄の方に行きます。

事務局

自由記述欄について、各設問の選択肢の中に「その他」という自由記述と、設問27「人権についてご意見がありましたらご自由にお書きください」という記述欄を設けておりました。

貴重なご意見をいただいた反面、かなりプライバシーに関わるような内容や具体的な差別体験など、主な内容を報告書に上げることが困難な内容がたくさんありました。

この自由記述欄については、要約して載せる、載せられるものをピックアップする、報告書には記載しないで、施策には事務局の方で責任をもって反映させるなどの方法があると思いますが、取り扱いについてご意見がございましたらよろしくお願ひします。

会長

個々に書かれているものに関しては何か個別の対応は行ったのでしょうか。

事務局

庁内に関するような内容もあり、関係機関には連絡し、対応させていただいています。

平田委員

一部を載せるというような記述はしているのでしょうか。

事務局

自由筆記欄の報告書にまとめる方法について特に明記をさせていただいておりませんので、報告書に載ると思っておられない方もいると思います。

山本委員

代表的な事例で載せるべき内容があれば載せれば良いと思いますが、基本的にアンケートでその内容が載ってるケースというのは、見たことがありません。

基本的には自由記述を載せるのは否定的に考えたらいいのではないかと思います。

榎原委員

自由記述に関しては、必要だと思った所だけを事務局側から出していただいて、必要であれば載せる方向で良いのではないのでしょうか。

会長

判断が難しい内容ですね。

出ると思ったから書いたと言う人もいるかもしれません。

もし載せなかったとして、次回の調査時に自由記述欄は書いても無視されるという印象を持たれると、信頼が落ちて回答が減ってしまう恐れがあります。

プライバシーにかかわる事は省き、原則的には事実が分かるレベルで記載する方法が良いと思います。

北條委員

私もこの調査あたりでしたが、発表してくれると思うから書く人が一般的だと思います。

書いた方の立場でもやっぱり公表すべきだと思うし、逆に作った側で言うと、なぜ自由記述欄を設けたのかと思います。

平田委員

私も数字だけなら分かりにくいので、声があった方がいいと思う。

山本委員

自由記述欄には、その他と自由記述欄がある。

次回の調査で上げて欲しい項目を上げてもらうのが自由記述欄になると思う。

書いてもらった内容をどう活かすかであって、中身をどうこうするとは意味が違うと思う。

自由記述を求める側の立場としたらそういう感じだと思います。

榎原委員

私も、アンケートの項目以外にも検討して欲しい項目という風に私はとらえました。

青柳委員

あくまで調査なので、事務局の方での選択は仕方ないと思います。

ただし書きの中にいろんな貴重な意見があってそれを市としてどう捉え、どう反映していきますと言うような文章を載せればよいのではないのでしょうか。

次回から載せて良いかを○×で選択させるようにして、今回のみ事務局判断で選別してると書いても良いと思う。

ある程度載せるとか納得ができる形の方がいいのではないかと思います。

文章は事務局側の判断だと思いますが、工夫していただいたら載せられるのではないかと思います。

会長

内容的には市に対する提言や意識調査の方法など建設的なご意見はあったのでしょうか。

載せ方として、ただし書きの書き方も中で「プライバシーに関わるものは控えさせていただきましたが、調査の方法及び市政に関する提言等に関してする自由記述をここに書かせていただきます」みたいなやり方もあると思います。

事務局が意見を振り分ける基準をこの審議会で話し合った方がよいのではないのでしょうか。

事務局

建設的なご意見としては、「講演会とかに行きたいが時間的に土日にして欲しい」とか、「LGBTの講座に参加しましたが、もっとこういう知識を得たい」という風なご意見がありました。

これからの施策に繋がるようなご意見であれば検討したいと思います。

平田委員

まとまった形にするなら、自由欄はできるだけ少ない方が良いと思いますが、事務的な面ばかりだと寂しいです。

市への批判などの内容も載せると、市民も隠していない事に対して信頼を感じられるのではないかと思います。

榎原委員

なぜ自由記述欄の部分を今回見せていただけないのでしょうか。

山本委員

最後に回収すれば良いのではないですか。

事務局

ご用意させていただきまして、配布させていただきます。

また、審議会終了後には回収はさせていただきます。

会長

次の議題に移っておきましょう。

事務局の方で次の議題の説明をお願いします。

事務局

(4) 無回答の取り扱いについてご意見いただきたいと思います。

資料のP1, 3の回答結果のところなのですが、2,000件に送付した結果、有効調査数1,985件でした。

15件は答えたくない、答えられない、住所不定のため、省かせていただいています。

また、全問白紙については有効回答から外させていただいております。

一部無回答のものは、無回答いう形で集計していますが、一種の意思表示として集計する考えと、傾向等を明確にするため集計から省くという考えもあり、無回答の取扱いについてまたご議論戴きたいと考えております。

山本委員

回収率が下がってきているのではないかと思う。

平成18年度46%、平成25年度も36.1%とだんだん下がっている。

前に督促をすればよいのではと提案しましたが。

インターネットで調べましたが、この数字は全国的に、人権調査の中でも低い数字だと思う。

事務局

予算がなかったため、督促の代わりにホームページ、広報にお礼文及び回答への協力依頼文を掲載しましたが、前回より下がった結果となってしまいました。

会長

インターネットで調べた中では、全国ではどれくらいの回収率だったのでしょうか。

山本委員

前回の資料で4割くらいです。

5割～6割は高いと思います。

事務局

大阪府の府民意識調査では、平成12年度55.7%、17年度が52.5%、22年度が45.2%、石

井さんの話で 28 年が 38.3%でした。

平成 12 年調査で、1 万人に送って 5568 件で 55%です。

北條委員

人権に関するアンケートは年々下がってきている。

選挙でさえ参議院では 40%台でしたし。

四條畷市だけの問題ではなく、日本あるいは世界の問題かもしれません。

平田委員

郵送が手間になってるのかもしれないですね。

北條委員

高齢者はプリントの方が書き易いですし、インターネットと紙と両方用意した方が良いかもしれませんね。

平田委員

ネットの弱点は 1 人の人が何度も回答出来てしまう事です。

1 度しか回答できないようにするには、シリアルナンバーを作ったり手間が増えますが。

乗本委員

以前は回収率を上げるために督促状を送付していました。

督促もやってないわけですから、時代と共に減ってきたのは仕方ないのかなと思う。

会長

次回は回答率上げる事も考えなければいけません。

督促という事も検討いただけたらと思います。

2000 年当時は、大阪はまだ人権に関する施策を結構やっていました。

市も府も、ピース大阪、大阪人権博物館とか、アジア太平洋人権情報センターもすごく活発にやっていた時期です。

人権行政がまた活発だった時期だったという違いはあるのではないかと思います。

会長

回収率は将来の課題ですね。

取りあえず無回答の取扱いをどうするかという事を検討しなければなりませんね。

事務局

指標を減らす事で、グラフを見やすくするべきという意見もありましたが、無回答、答えたくないという意見省いた方がいいのかも検討していただきたいです。

山本委員

性別の無回答についての問題を言ったのですが、他の人は無回答という項目についての無回答と取っている人もいると思います。質問者側はどこが無回答を問うているのかよく分かりません。

事務局

説明不足で申し訳ありません。

属性の部分の無回答の取り扱いについてのどのようにさせていただくかです。

会長

無回答に関して、特に問題がなければ入れていいと思います。

事務局

例えば性別の所で、無回答、答えたくない、その他を併せて、性別だけで5本棒グラフが並ぶ事になります。

見やすくするために52人おられる無回答は消してしまってよろしいでしょうか。

会長

個人としては残しておいたほうがいいのかと思います。

属性自体が今LGBTの承認とか、生活の多様化によって変わってきているかもしれないので、我々が判断して消すのは良くないのではないのでしょうか。

山本委員

データそのものは上の表に記載されているので、グラフで表す時にだけ指標を減らす事で見やすくした方がよいのではないのでしょうか。

平田委員

今までこういうケースはどういう風に処理していたのでしょうか。

事務局

前回の調査内容しか手元にないのですが、前回は無回答もグラフに載せた状態です。

山本委員

前々回の調査では、男女しかありません。  
全員どちらかに応えてくれているという事ですかね。  
929人のうち男性が377で女性が532でした。

榎原委員

この件に関してはアンケートを作るときの問題だったと思うんです。  
5年前の調査に乗かってやってはどうかと思います。

青柳委員

私はやっぱり属性の無回答、答えたくない、その他にも大事だと思います。  
前々回男女しかなかったっていうのは時代の経緯もあると思います。  
早い市ではアンケートで導入されていると聞きます。  
こういう欄もグラフにも必要だと思います。

山本委員

スペースがあれば入れても良いのではないのでしょうか。

青柳委員

可視化の部分もないと、疑問に思う人もいらっしゃると思う。  
見やすくなるもっとグラフを大きくする等でも良いと思う。

平田委員

男でも女でもない人はグラフに載せないと言うのは今の時代には合っていないと思います。

会長

テクニカルな事に関してご意見ありますでしょうか。

事務局

解説文章もこれから入れる予定ですが、まだ自由に使える余地はあります。  
ただし、選択肢11の性的マイノリティーの人権に関する問題についての関心度を見ていただきたいのですが、特に答えたくないと回答された方については28.6%と高い関心を示しておられるのですが、無回答の52名の方が3.8%、こちらが意図している無回答ではない可能性があります。  
どういう方が無回答にされているのか読みにくくなっています。

山本委員

8割か9割が記入漏れ等ではないか。

そこに重点を置いてどこまでやるかですね。

それより普通の人がみて判り易いように重点を置いた方が良くはないでしょうか。

平田委員

答えたくないはどっちにしても載せるのですね。

事務局

答えたくないについてはそういう意思表示をされたいという事で載せたいと思います。

<自由記述を配布する>

会長

自由記述欄の方に移りましょうか。

第一印象では、問27の記述量が多いですね。

これだけ市民が関心があると示す事になるのではないのでしょうか

プライバシーに関わる事はただし書きを入れて載せた方が市民も期待するんじゃないでしょうか。

気にしているのは差別的な発言でしょう。

青柳委員

調査によって意識が変わっていただけたように思う方もいらっしゃると思います。

山本委員

27番はこういう記述を求めているのですから、どうまとめるかは事務局で基本的な考えとしては示していただかないと。

それ以外の項目については私がさっき言ったように、項目に対する枠組みというのを新たに考える必要があるかなという風に思います。

事務局

実際は問27の方を苦勞しています。

まずは問27以外のその他記述欄について議論いただければと思います。

青柳委員

各項目の自由記述欄はこういう設問があればいいとか、こう思ったとか個人的な意見で書いている事だと思うので、今後の集計に入れようかという事なので、事務局が判断すれ

ばいいことなので、載せなくてもいいのではないのでしょうか。

事務局

今ご意見いただいた問 27 以外のその他については、事務局側で載せたいものが無い限り載せないという事でよろしいでしょうか。

問 27 では、自分の経験を書いていたたり、気づきや、今の社会について書いていたり、方向性がさまざまなので、まとめるのに苦慮しており、アドバイス等頂きたいと思っています。

山本委員

例えばキーワードを 10 か 20 決めて分類するのはどうでしょうか。

事務局

ありがとうございます。

例えばアンケートに関する感想とか、市政についてのご意見、ご本人の経験等で分けるという事でしょうか。

山本委員

例えば部落問題について述べられているものは部落問題に入れていくなどグルーピングできると思います。

青柳委員

グループ化して、そのうちいくつかを載せるのはどうでしょうか。

まずは載せるか載せないかだと思いますが、市民としては載せて初めて気づきがあると思うので、見る楽しみもあると思います。

守屋委員

人権施策を推進するアンケートなので事務局がしっかりイベント等に活かしていただければ、出さなくて良いのではないのでしょうか。

平田委員

分量的には全部載せるのはやっぱり難しいですし、抽選っていうのも考えとしてどうでしょう。

山本委員

市民の現在の正直な人権意識がこの中に出てくるので、できるだけキーワードごとにまとめた方が後々の参考になるし、こういう生の声が聞ける機会は少ないと思う。

それは幅広く集めた方が良いと思います。

差別的な事もあると思いますが、逆にそれを載せるのも、差別的な意見も、現在の市民の意識ということになり、それでもいいかなと思う。

榎原委員

アンケートを書いた感想を書いている人もいるのではないのでしょうか。

会長

私は全部載せるべきだと思います。

問 27 も、問 27 以外もいい意見がたくさんありました。

建設的な事も書いてあるので、これは原則的に全部出した方が良いのではないですかね。

スペースはホームページだったらいくらでもできますので、

逆に四條畷市の自由記述欄でこれを出す事で、将来の回収率が増えれば、将来的にもこのやり方が全国的に評価されるんじゃないかと思います。

特に行政に関する注文や批判に関しては回答を作るなどすると、市民と対話が生まれる事となり、良い前例を作れると思います。

事務局

自由記述欄は公開されるものだと考えてくださる方がいる一方で、出されたくない人がいるというのも危惧してしまっていて、事務局で文章を編集するのはどうでしょうか。

平田委員

全部載せれたら一番いいと思います。

事務局

別冊子というの也被えられます。

庁内で調整しないといけません、問 27 に関しては、概要版では大まかにこういう意見がありましたというくらい、詳細版では全部載せさせていただくような。

山本委員

書いている人が発表して欲しくないと思ったというのは推測であって、書いている人は出されていいと思って書いていると思う。

間違っている事だけは注釈などで訂正すればいいと思いますが、継ぎ接ぎにしてしまうと迫力がないので、この文章のまま公表していくのが基本かなと思います。

乗本委員

全部載せる事に対してはまとめてもいいのではと思います。

人権問題という意識や考え方で、肯定的なもの、否定的なものの代表的なものを上げる。市役所に対しての肯定的なもの、否定的なものの代表的なものをいくつか挙げていくのはどうでしょうか。

全部を載せてしまうというのは、どこで取捨選択するかというのが判断難しいのではないかなと思います。

会長

概要版ならある程度選択するのはわかりますが、紙面の都合上、予算の都合があるので、ホームページは載せてしまっていていいと思う。

事務局

ありがとうございます。

問 27 に関しては部分的に出す、全部出す、出さなくていいという全部の意見を頂戴した上で一度庁内に持ち帰らせていただきたいと思います。

会長

最後 (5) のその他お願いします。

山本委員

2つ注文をしたいのが、前回との意識調査との比較をしてほしいのと、クロス集計の話で男女、年齢、職業等明らかに特徴のある箇所はメインの方に載せて欲しいです。

差がある回答についてはメインの項目に男女比にこういう違いがありましたと記述を書き込んでもらうとか、報告書のメインを見ればおよその事が分かる方が良いのではないのでしょうか。

石井委員

公演を聞いてきましたが、性同一性障がいについては障がい者差別解消法の中に入っているので、合理的配慮が必要で、教育委員会では義務化されています。

男女で分けた便所は行きたくないという声も聞いているので、アンテナを張っていただきたい。

また、人権の研修会に行ったことがないという人が数字的にたくさんいらっしゃいましたが、「人権の研修」と書くから分かりにくいのであって、実際は職場等で人権に関する事を含め、様々な研修を受けていると思います。

言葉も次回はわかりやすくするように変えて欲しいです。

北條委員

2点ほど、前回のデータとの比較は大事なのでやって欲しいと思います。

私も前回と比べてみましたが、大幅に変わっている箇所が何箇所もあります。

変化に気付くような形にした方が良いでしょう。

それからもう一つは、属性で、家族構成とか居住年数とかデータがないので、クロスしなくてもデータはあってもいいのではないかと思います。どんな人が書いているのか。

後、国名書いてもらいましたよね。それについてももし公表できるんだったら公表してもらった方が、四條畷市にこういう人が住んでいるんだなという事がわかっていいと思います。

平田委員

訴えているので何とか載せることできないかなって思うんです。

事務局

北條委員がおっしゃっていただいた国籍についてなんですけども、2,000人ランダムで選んだ中に確かに外国籍の方おられたはずなんですけども、国籍を回答された方がおられなかった状態です。

会長

ありがとうございました。

他にご意見ありませんか。

その他について事務局から説明をお願いします。

## (2) その他

事務局

案件というわけではございませんが、事務連絡といたしまして、今年度第2回審議会も考えております。

恐れ入りますがどうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

会長

ありがとうございました。

他に質問等ありませんでしょうか。

なければ本日の案件はすべて終了いたします。